

聖書日課 『からし種』 2023.4.9-4.16

<p>4月9日 (日) I サム 23章</p>	<p>「ヨナタンが…ダビデのもとに来て、神に頼るようにとダビデを励まして、言った。『恐れることはない。父サウルの手があなたに及ぶことはない』(16-17節)。権力欲に突き動かされることも、ダビデへの嫉妬にかられることもなく、ただ神を畏れて従うヨナタンの信仰に心を打たれる。信仰は、肉を通してではなく、神から与えられるもの。ただ聖霊の働きを求めて。</p>
<p>10日 (月) I サム 24章</p>	<p>「わたしの主君であり、主が油を注がれた方に、わたしが手をかけ、このようなことをするのを、主は決して許されない。彼は主が油を注がれた方なのだ」(7節)。武器を手にしてもダビデの心の真ん中には「主の油注ぎ」への畏れがあった。「わたしの選び」ではなく「主の選び」がある。今日、主から託されている働きに祈りをもって応えることができるように。</p>
<p>11日 (火) I サム 25章</p>	<p>「イスラエルの神、主はたたえられよ。主は、今日、あなたをわたしに遣わされた。…わたしが流血の罪を犯し、自分の手で復讐することを止めてくれた」(32-33節)。アビガイルの賢明さと勇気によって流血の惨事が食い止められた。「自分の正義」を振りかざして、すぐに戦争をしようとする男たちの愚かさを制止してきた女性たちの祈りと賢明さを示される。</p>
<p>12日 (水) I サム 26章</p>	<p>「サウルは言った。『わたしが誤っていた。わが子ダビデよ、帰って来なさい。…わたしは愚かであった。大きな過ちを犯した」(21節)。サウルは何度も同じ過ちを繰り返している。サウルの王権は「神から託されたもの」なのに、いつの間にか彼は「自分のもの」と考え、神を見失っていった。私たちに今日、大切なものを託してくださっている方への祈りを忘れずに。</p>

聖書日課 『からし種』 2023.4.9-4.16

<p>13日 (木)</p> <p>I サム 27章</p>	<p>「ダビデは心に思った。『このままではいつかサウルの手にかかるにちがいない。ペリシテの地に逃れるほかはない』」(1節)。ペリシテは長い間イスラエルを苦しめてきた「敵」であり、ダビデもさんざん戦ってきた相手である。しかしそのペリシテ人の「好意」にすぎるほか、ダビデの生きる道はなかった。「敵」と思う中に神が備えたもう「救い」を見る者とされて。</p>
<p>14日 (金)</p> <p>I サム 28章</p>	<p>「その女はサウルに近づき、サウルがおびえきっているのを見て、言った。『…今度は、あなたがはしための声に聞き従ってください』」(21-22節)。サムエルの言葉におびえて地に倒れ伏してしまったサウルを助けたのは口寄せの女性の優しさだった。神の助けを失った王ほど、哀れな存在はない。どんなに立派な王服を着ていても、地に倒れるほかないのだ。</p>
<p>15日 (土)</p> <p>I サム 29章</p>	<p>「ダビデとその兵は朝早く起きて出発し…」(11節)。ダビデはペリシテ王アキシュに「忠誠」を装い、庇護を受けることに成功するが、そのアキシュがイスラエルと戦うことになり窮地に追い込まれる。ところが、他の将軍たちが難色を示すという、神ご自身の介入としか考えられないことが起こって窮地を脱したのだ。神の助けなしに生きられないダビデがここにいる。</p>
<p>16日 (日)</p> <p>I サム 30章</p>	<p>「ダビデと四百人の兵は追跡を続けたが、二百人は疲れすぎていてベソル川を渡れなかったため、そこにとどまった」(10節)。「川を渡った者は、不可能を可能にする神の奇跡にあずかった。みんなも、体験してほしい。でも、川を渡りきれなかった者たちのために、イエスさまが世に来られたことも覚えてほしい」とある宣教師が涙ながらに語ったことがある。</p>